

つながってる!?

わたし と 北極



あなたは「北極」と聞いて何をイメージしますか。地球温暖化の最前線である北極は、今、世界中から注目を集めています。日本から遠い北極を身近に感じる人は少ないかもしれませんが、さまざまな面で私たちの生活とつながっています。北極と日本の今とこれからについて、一緒に考えてみませんか。

12.1 2024 [SUN]

13:00-16:30 (12:30開場)

参加無料 200名

(事前申し込み制・先着順)

※日本科学未来館の常設展、特別展、ドームシアターへの入場には別途料金が必要です。

→ 第1部 話題提供・つながりを探る

話題提供: 佐藤 友徳 (北海道大学)
小谷 亜由美 (名古屋大学)
上野 洋路 (北海道大学)
司 会: 齊田 季実治 (気象予報士)

→ 第2部 パネルディスカッション・つながりを感じる

話題提供・ファシリテーター: 齊田 季実治
パネリスト: 上野 洋路、小谷 亜由美、佐藤 友徳
※プログラムの内容は一部変更となる場合がありますのでご了承ください。



気象予報士の
齊田 季実治さんが
北極研究者とともに登壇!

会場

日本科学未来館 7階 未来館ホール
東京都江東区青海2-3-6

参加申込

参加をご希望の方は、下記ウェブサイトよりお申し込みください。
<https://www.nipr.ac.jp/arcs2/outreach/seminar2024-12-01/>
2名以上の場合は、お手数ですが1名ずつお申し込みください。



第1部 話題提供・つながりを探る

第1部の話題提供では、北極研究者が大気、陸、海をテーマに、北極の今や日本とのつながりを紹介します。



北極と日本をつなぐ大気のながれ

佐藤 友徳

(北海道大学 大学院地球環境科学研究所 准教授)

専門は気象学。陸や海洋などの地球表層圏と大気の相互作用に関心を持ち、雨や雪などの水循環の変動を研究している。世界各地の気候変動や社会への影響を理解することを目指して、気候モデルを用いた数値シミュレーションやデータ分析など屋内で行う研究を主としているが、可能なかぎり現地を訪問することを心がけている。

Tomonori Sato



日本とどう違う？ シベリアの森林で起こっていること

小谷 亜由美

(名古屋大学 大学院生命農学研究科 准教授)

専門は生態水文学。北極を取り囲む陸域生態系、特に東シベリアの森林と大気、凍土との間の水やCO₂の循環を観測して、気候変動への森林の応答と北極域の環境形成における森林の役割を明らかにしていきたいと考えている。



海でつながる日本と北極

上野 洋路

(北海道大学 大学院水産科学研究所 教授)

専門は海洋物理学。北太平洋から北極海を中心に、海洋の水温・塩分、流れ場などがどのように変化しているのか、その原因は何であるのか、生物にどのような影響があるのかを研究しており、主な研究手段の一つは海洋観測。北海道大学水産学部附属練習船おしよる丸により、北極海・ベーリング海を中心に数多くの海洋観測を実施。

Hiramichi Ueno



第2部 パネルディスカッション・つながりを感じる

第2部では、気象予報士の視点から見た日本と北極とのつながりを紹介し、研究者と共に日本と北極のこれからの考えます。



話題提供・ファシリテーター

北極圏が鍵を握る「冬の天気予報」と「宇宙天気」

齊田 季実治

(株式会社ヒンメル・コンサルティング代表取締役/気象キャスターネットワーク理事/宇宙天気ユーザー協議会アウトリーチ分科会長)

北海道大学で海洋気象学を専攻し、在学中に気象予報士資格を取得。報道記者として自然災害の現場を数多く取材し、被害を伝えるだけでなく、未然に防ぎたいとの思いから気象防災の専門家の道へ進む。現在はNHK「ニュースウォッチ9」「明日をまもるナビ」などに出演、連続テレビ小説「おかえりモネ」で気象考証を担当。文明進化した「宇宙天気災害」に備える取り組みも進めている。

パネリスト●上野 洋路、小谷 亜由美、佐藤 友徳

会場 日本科学未来館 7階 未来館ホール 東京都江東区青海2-3-6

<https://www.miraikan.jst.go.jp/>

Access

新交通ゆりかもめ ▶ 「東京国際クルーズターミナル駅」下車、徒歩約5分 / 「テレコムセンター駅」下車、徒歩約4分
東京臨海高速鉄道りんかい線 ▶ 「東京レポート駅」下車、徒歩約15分

お問い合わせ先

国立極地研究所 北極観測センター

E-mail arcs2_nipr@nipr.ac.jp

写真提供：上野 洋路、小谷 亜由美、佐藤 友徳

